

東北ブナ紀行（84）

奥田 博

宮城県の前山訪問は終わりに近い。見事なブナ林から、目を引く大木の一本ブナなど多彩だが、奥深さを感じさせる森は、宮城県には少なかった。

131) 蛤山 1014m

蛤山は宮城南部にあり、福島県から訪れる登山者は多い。春の花の季節は何度も登っているが、周回コースは花に恵まれて楽しい。ブナは標高900m前後の山頂部に自生している。山頂の北側は花が主役になることが多く、勢い南側は立派なブナが主役だ。特に三角点山頂のコキンバイと大木のブナの組合せがベストだが、両方を収める技術もレンズもない。花は少なくなるが、新緑も捨てがたい。そういえば紅葉の季節には登ったことがないことに気付いた。

コースタイム：西登山口（1時間30分）山頂（1時間20分）東登山口



丈の低いコキンバイと大木のブナを写真に収めるのは至難の業

132) 大倉山 834m

大倉山と氾濫原と呼ばれる花の沢を周回することが多い。今回は、早春の花も終わった頃にブナ新緑とシロヤシオを狙って入山した。桑沼の南岸からの登路は、登山禁止になってしまった。このルートは、急坂だが短時間で尾根に出られる点、優れていた。尾根に出るとシロヤシオが咲いている。というか咲き競うように次々と現れて実に見事だ。シロヤシオは大倉山山頂から北泉ヶ岳手前まで満開だった。大倉山頂から下っても、見事なブナは続く。下るにつれて新緑は瑞々しいが尾根道にシロヤシオの花びらが散って、それはそれで美しかった。

コースタイム：登山口（1時間）主尾根（1時間20分）大倉山頂（2時間30分）登山口



手前にマイヅルソウ、奥にシロヤシオとブナとミズナラ
贅沢な眺め